

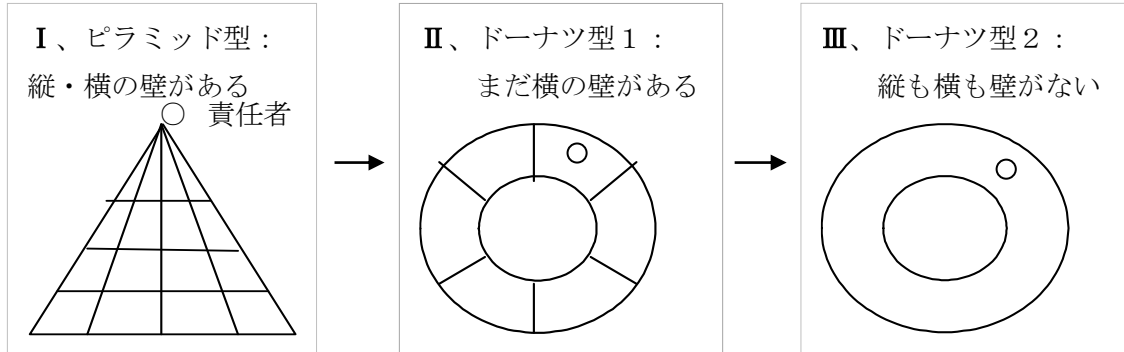
三たび多職種協働について

考え方や法令上の規制は時代と共に変わりますが現在では、特に老健施設においては多職種協働の典型的職場とされています。しかも法令上は病院ではなく、医療も行う介護施設です。そして多職種協働とは既に何度もお話ししておりますように下記「第三段階のドーナツ型2」が私たちの求める理想の他職種協働ですので、出来ることは互いに手を出し合って直接担当者が不在時でも一時的にはカバーできるような各人の心構えが必要です。

多職種協働というのは、職種間の上下はありませんが各人の背負っている看板「専門職や役職という看板」には上下があります。その上下は言い換えればマネージメントという役割です。更にそのマネージメントには決定権と言う権限と責任が伴います。意見の調整は必要ですが決定は看板を背負ったその場の役職者が行わなければなりません。そしてその看板は固定的なものだけではありません。例えば当直帯は施設長代行者がいます。あるいは緊急時にはその時のリーダーだったりサブリーダーだったり状況に応じて臨機応変に変えなければなりません。

老健施設は多職種協働の実践の場ですので自信を持って、心の余裕を持ってプロ意識を持ってお仕事に従事致しましょう。

多職種協働の3段階レベル：理想はドーナツ型2です。



老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者の QOL・職員の QOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。